

第13回「県政ひざづめ談議」結果概要

開催日時：平成19年11月27日 16:00～

開催場所：山梨県地場産業センター かいてらす

[司会]

ただ今から知事対話県政ひざづめ談議を始めたいと思います。進行役を務めます県の広聴広報課長田中です。よろしくお願いいたします。

最初にまず知事からごあいさつを申し上げます。

[知事]

どうもこんにちは。宝石業界のそれぞれ主だった皆様方にはお忙しいところを今日はお集まりいただきまして本当にありがとうございました。

ひざづめ談議は20回行うということで続けてきておりますが、あらかじめシナリオなど無しにですね、ざっくばらんにそれぞれ思いの丈をおっしゃっていただいて、われわれとして応援できることがあれば最大限させていただきたいという思いでこういう会をやっております。是非とも本音のざっくばらんなところを、お聞かせいただければというふうに思います。

よろしくお願いいたします。

[司会]

本日出席しております県の担当課長とそれから市の担当部長を紹介させていただきます。

県の商工労働部で地場産業の振興、やまなしブランドの推進などを担当しております清水工業振興課長です。

市の産業全般を担当しております早川産業部長です。

本日は、水晶宝飾産業にかかわっている皆様と、「ジュエリーやまなしブランドの確立」をテーマにして意見交換会を行いたいと思います。

本県の重要な地場産業でありますジュエリー産業が、より活性化するためにどんなことをしていけばいいか、そういう観点で、話し合いをしたいと思います。思うところ自由に、活発に意見交換をしていただきます。

本日いただきました皆様からのご意見、それからご要望とか、それから疑問の点ということについては、今後の県政の参考とさせていただきます。

それでは、ご発言をお願いいたします。

[参加者]

宝飾業界は水晶研磨から始まりました。そして、バブルの最中平成4年になりますか、

当時、一番絶頂期の時から右肩下がりに今度はなってしまうところですよ。私どもは新商品を出してるんですけども、中々売れない厳しい時代です。

さらに海外からの商品の輸入量が相当増えています。山梨県の場合、国内の約3分の1を生産しているわけですけど海外の商品、特にナショナルブランド、そして中国・インド・香港等等ですね、低価格商品もまた増えてると。というところで今それが日本の販売価格の約23%を占めるにいたってしまったところです。このままもっていった場合に、ジュエリーの地場産業と呼ばれるところがおぼつかなくなってしまうこともありえる、ということです。

しかし、それより根本的なもので、この地場にとって職人さんたちがこのままいったら、いなくなってしまうのではないかと、という危惧を踏まえたなかで、いまやってるところでございます。

なおかつ、私どもは卸しとして、全国に販売をしてきていたわけですが、私どもが「ジュエリーが地場産業ですよ」ということを一般ユーザーの方、消費者に今まで伝えてこなかったことが、宝飾業界にとってもマイナスな面が徐々に出てきてしまったかなと苦い思いもございます。

しかし今、海外との商品の差別化を図るために、ジャパンプランドというようなものも今進めてるわけですが、やはりジャパンプランド「Koo-fu」が認知されることによって、それが一般消費者にとっても、山梨はジュエリーの産地だということをやはり訴えていくことができるのかな、という気がしております。

また大宝飾展、約2千億の上代価格の商品をアイメッセ山梨で4月に展示会において出しているわけで、それだけの商品を一度に見ていただく機会というものは一般ユーザーの方には中々少ない。ですからこういったものを、今後、一般ユーザーに向けてアピールして、そしてファクトリーセールに関しても、一般ユーザーに向けて展示会をすることによって知らしめる。また県外から山梨にお客さんを呼ぶことに関しても積極的にやっている最中でございます。

やはり県内に来ていただいたお客さんにですね、ただ展示会だけで終わってしまったは一過性のもので中々インパクトが少ないものですので、今後中心街の活性化というものを見た時にジュエリー博物館、またはミュージアムというようなものも考えていただきたいと考えております。

また水晶鉾山、今これ盗掘問題も起こっているみたいですが、そういったものが県内にあるのかかわらず、それが認知・告知されてないということを見た場合に、そういったものも一つのルートとしてなんとかうまく利用できないかという考えもございません。

また、中心街に「甲府」というようなものも見据えた中で、やはりお客様にとっても、この場所は作り手の町だと思っていただいて、そして来ていただいて商品を購入してもらうためには、やはり甲府の中心街、また宝石学校というものも踏まえた中で、うまく表現できればと考えています。

私どもはこの産業だけではなくて、ワイン・ぶどう・印伝とか、そういったものも併用した中で、地場産業全体が一元化し、この山梨を売って行きたい、また山梨に来ていただく観光客を誘致したいと考えております。

今日はよろしくお願いいたします。

[知事]

今話がありましたように業界としてですね、素晴らしい物づくりの技術はお持ちになってるわけですが、それだけじゃだめだと。それを一般の消費者にですね、是非それを知ってもらって、そしてそれをユーザー相手に販売していくという努力をしてかなきゃいけないというお話があって大変心強く思っております。

ジュエリーミュージアムについては私も是非、できたらいいなというふうに思いがあってですね、業界がその方向でまとまっていたら、選り取り見取りで、一番いい所に、そういうものを作ろうかということになるんじゃないかと思うんです。

是非それは我々も甲府市と一緒にバックアップしたいと思います。

水晶鉱山の盗掘の問題はこの間うかがいましてですね、さっそく森林環境部のほうに調べさせているんですけど、取り敢えずは盗掘されないようにきちっと管理をするような体制をとこう言うんですが、中々やっぱりこう柵を結うってだけではすまんようですね。中へ坑道が入ってくところは結えばいいですけど。外へ出てるようなところを削ってやってるんですが、そこん所は中々人を完全に入れないようにするのは非常に難しいのがあるようでしたね。これはちょっともう少し工夫しなければいかんというふうに思っております。

[参加者]

まあ観光ルートの方の一環としてまた考えていただきたい。

[知事]

そうですね。

[参加者]

この間ですね、テレビ番組で水晶鉱山などを放送されてもそれを利用することができない状態ですね、人気番組で放送されるとかなりの人が来るって話だけでも、人が来たって話聞かないですね。

我々の産業も山梨の風土が生んだものですよね、やっぱり水晶鉱山があって。だからそういうことをやっぱり再確認しながら訴えていけば、広域行政の観光立県というものの一角も我々が参画もできますし、あらゆることで一緒になって交流人口も増えていくのではないかと思うんです。

[知事]

乙女高原のどの辺にあるんでしょう。かなり辺鄙なところ、簡単には入れんようなところだっていうことを聞きますが。

観光地として、管理できるような場所はあるんですか。

[参加者]

いや、ありますよ。

[知事]

乙女高原といえば、琴川ダムができてこれから湛水していくんでしょうけども、あそこの湖尻のほうには集落がありましてね、これから観光で生きてこうかということ言ってるわけですよ。

[参加者]

ミネラルも水も花崗岩のそこから流れているのは非常にいい水と言う。大体関連をしているんですよ。だからそういう感覚のことからある程度きちっとしたビジョンづくりをしてやったらいいんじゃないかなと思います。

観光ということをも昔みたいにただ見に行つてという感覚の観光から、参加型の観光に変わってきてますからね、団体ではなくてですね。それを受け皿にすることはどういうことなんだろうかっていうことも大切なことじゃないかと思うんですけれどね。

[知事]

そうですね、ちょっとこれは研究してみますので。

[参加者]

私は研磨をやっていますが、若い方が中々入ってこないですから。なぜ入ってこないというのは色々理由はあるんですけれども、一言で言えば儲からないから入らないということもあるんです、海外の安いのがどんどん来ますからね。

それに対抗するにはどうしたらいいか考えて、他所でやっていないようなものを考えてやるんですけれども、原石とかそういうものが中国がほとんど量を買っちゃうんで日本には中々いい物が入って来ない。

何かこういうルートがあるということを探していただければということも考えてほしいんです。

そしてもう一つ、ちょっと私も詳しくは分からないんですが、ドイツみたいに原石を持っていても税金がかからないようにしていただけないでしょうか。

原石を買っても、早く売らないといけない、持っていられないですね、100年たっても腐らないですから、なるべく自分が持っていられるような格好で税金を無税にするとかね、わがままなんですけれどもそういうことを考えていただければと思います。

[知事]

特区ですか。

[参加者]

そうです特区ですね。

[参加者]

先ほども言われていましたが、外国商品との差別化の件です。こういう問題で長年苦しんできました。彫刻に関しても中国あたりから今から10年ぐらい前にどんどん輸入されまして、すごく大きいものが安いということで一般のユーザーはみんなそういうものを買って求めた時代がありました。

たまたま私どもは昭和51年に、国から山梨県第1号の伝統産業ということで認定されました。それには伝産マークといいまして、日の丸付きの素晴らしい証紙がありまして、それをいただきました。

当初は、外国商品に貼るとか色々苦情に関する電話が多い時期があったんですが、組合は鑑別書とは別に作者証明、要するにこういう方が作ったものと、それにその証紙を貼ることにしまして、それから外国商品と差別化がはかれました。

そういう意味で、山梨県ルールを作っただいて、要するにメイドインジャパンでもいいですし、Koo-fuを使ってもいいし、そういうことで何か差別化をする。そうするとこれは甲府のこういう立派な職人さんが作ったんだという格差付けができることを何か考えていただければ、協会全体としても後継者を育成していくのにすごく役に立つなと私自身は考えております。

[知事]

ワインの原産地表示みたいなものですね。

[参加者]

そうですね。そのためにはKoo-fuとかジャパンブランドを一生懸命やっておりますが、それ以外にやっぱりその辺の外国商品との差別化ね、これがなんとかできるようになったらすごくいいんじゃないかと。

[知事]

技術的には全く外国製品を上回るものが十分にできているんでしょうね。

[参加者]

それに関連して、工業技術センターにLA-ICPという機械を2週間ぐらい前に入れてもらったんですが、動かせる職人、技術者がいないんです。

それをどうして使うかという、今外国製品がいっぱい入ってきてまして、それを協会で抜き打ち検査をして地金の証が確かにあるかどうか検査をしているんです。

このところ40点ぐらいやったんですけども、ある国のものがシルバーと打ってあるけれどもシルバーは0で銅しか使っていないとか、そういうものを検査することによって地場の商品を守れるということで、それには取り敢えず技術者の養成を早急にしていただきたいんです。

[工業振興課長]

工業技術センターの職員が使えないということですか。

[参加者]

入ったばかりですから。要するにオペレーターなんです。

[参加者]

ソフトの入れ込みから、最初データを多く蓄積しないと中々分かりづらい。

一つのプラチナを調べるのに5元素ぐらい調べるんで、今は鑑別機関に外注で出していますけれども、センターのその機械でやると多分10分の1ぐらい安くできるだろうと。

[知事]

それは職員の配置を考えます。できる人間をね。

養成すればはいいんですかね。

[工業振興課長]

研修は多分やっているはずです。

今年入った機械ですからもうしばらくお待ちください。

[参加者]

工業技術センターにやっていただきたい部分があります。

今、素材の中で10金という素材が出ていまして、その電解という部分でどうしてもシアンつまり青酸カリを含んだ材料を使って電解をしなければいけないです。貴金属組合からもっと安全性の高い電解研磨というのはできないでしょうかとお願いをしたんですけども、工業技術センターでも中々経験値がないという部分と、今まで扱ったことがないというところで恐らく技術者の方も若干不足しているのかなという部分を感じます。

もっと言うと我々がお願いしたことに対して突っ込んだ研究ができるような、そういう環境整備をできればお願いしたいなと思います。

[知事]

そうですか、技術者が足りないんですかね。

[参加者]

僕は宝石学校を卒業して、今は宝石学校の非常勤講師と家業の貴石彫刻業を父と一緒にやっております。祖父の代からやっております、僕で三代目になります。なんとかこの伝統技術をあとに残したいとやっています。

宝石学校でも研磨の授業を教えているんですが、学生も色々積極的に聞いてきますし、僕も是非この研磨業界に後継者として学生にも入ってもらいたいと思って色々教えていま

す。

[知事]

今県内就職率がどのくらいかな、80%くらいですか。
今地域枠というのは作っていますか。

[工業振興課長]

はい、25人です。

[参加者]

中々、研磨職人として雇っていただける企業がないので、是非学生の就職先をよろしく
お願いします。

[知事]

はい、是非がんばって、しかし非常勤講師をおやりになっているというのは優秀です
ね。この歳でね。大したもんですね。

[参加者]

あと5年から10年は職人さんはいますけれども、いなくなった時点で甲府の技術もそ
れで終わるのではないかなという気がしています。

今の状態のマスター制度でしたらいい職人さんは出てこないと思うんですよ。1回外に
出てきちんと勉強して、また学校に行つてという、ヨーロッパ形式の制度をきちんと入れ
てくれればいいんです。

[工業振興課長]

ジュエリーマスターは350人程度しかいないんですよ。そしていわゆるマスターは
28人しかいないはずなんです。ですから技術的なレベルが低いとは私は思っていない
んですが・・・。

[参加者]

根本的な構造改革をしないとだめなんですよね。

貴金属の加工職人も研磨職人も彫刻職人も、これは中国・ベトナム・インドが追いか
けてくる。自国の産業は自国で保護しなければならない、じゃあ私たちを保護してくださ
いと言っても保護された産業は壊滅していくのが現実です。我々が我々の産業をどのよう
な形で守っていくのか、技術の伝承をしていくのかということですね。

水晶の彫刻も、中国の彫刻と山梨・日本の彫刻というのは、風土というものから雰囲気
が違ふんです、ジュエリーの加工もそうなんです、韓国で作ったものが即売れるかとい
うと、やはり韓国の人がここに来て、我々の考え方をきちんと考えて作ったものが売れる、

これは雲泥の差がある。風土が生む文化というものを商品に伝えてやるということですから、その土壌をつくるということを我々が一緒に、行政と一緒に努力をしなければいけない。

保護されてこれをやってください、それだけだと我々の産業は残っていかないと基本的に考えていまして、ジャパンプランドもその一つとして提唱させていただいているんです。

ですから観光立県山梨の中において、我々の産業が三百数十年という歴史の中において技術を伝承しながら、営々として我々はどのようにしてこの先に、企業を営むと同時に、我々産業人として山梨の産業の一角または技術の伝承というものをやっていくにはかなり構造改革をしていかないとだめだろうと思っているんです。

[知事]

確かにジュエリー産業というのは山梨にとっては文字通り宝物ですからね、業界としてあれをやってくれ、これをやってくれとおっしゃれば、それは一生懸命最大限応援はすると思うんですけども、しかしおっしゃったようにじゃあ何でもかんでもそれいいのかということはありませんね、確かにね。

その辺はだから県は検討して、セレクトしながらやっていかなければいかなんということがありますね。

[参加者]

ですが非常に些細なことでもインターバルを長く将来を見た時に、これは今やっておかないとだめなんだ、我々が将来十何年ここだけはやっておこうとか、その辺のことを行政のほうにも我々の実情、現実をきちっと見ていただいてやっていただくということが必要じゃないかと思います。

[知事]

当面やっぱり川上から川下までとりわけ直接消費者にアプローチをするということも非常に大事なことです。

さっき話がありました大宝飾展というのは2千億円からの物があの場所に集まるということも大変なことですよ、これは。民放テレビでもPRして必ず取り上げるに違いないと思うんです。

[参加者]

一般消費者にアピール、行政がこれは産業としての宣伝をする、行政が広報をすると信用が一番あることなんです。

例えばエージェントを集めてもらうのは県で集めてもらえば一番集まりやすいです。

[知事]

なるほど販売での協力ですね。確かにそうかもしれないですね。

確かに行政がやるからやっぱり旅行者でも、観光あたりでもみんな旅行者が集まってき

ますよね。

それは確かそうですね。分かりました。

[参加者]

水宝連では、今、大宝飾展の話が出たんですけれども、これは私どもで消費者の皆さんにPRするという位置付けで展開をしております。どうしてもPRということについての補助が出てこないらしくて、物作りでは工業振興課でいただいているんですけど、PRという面についての補助金を是非一つご検討いただきたいのです。

[知事]

工業振興課も一生懸命やっているんで、何となくやっぱり物づくりとか生産とか技術とか、そういう面はそれはそれで大事なことですけど、販売とか、そっちの方面はなかなか手が回らないという、行政はそういうところがありますね。

[参加者]

私が一番思ったのは、美術館に我々伝統産業の伝統工芸士が造った製品を置いて欲しいと話をしたんです。

ミレーを置くよりも我々の製品をそこにちょっと置いて欲しいという話を館長と何回もしたことがあるんですけどだめだったんです。

[参加者]

実際にジュエリー協会の50周年記念展を美術館で行ったんですけども、そしたら美術館が始まって以来の入場者があったんですよ。

3日間で6,500人ぐらい来たのかな、もっと1万人近く来たんじゃないですか。

[知事]

美術館のそういうアイデアは是非出してください。

[参加者]

宝石貴金属協会員の特別展としまして、彫刻をメインの一般常設展示場に200から300点近く展示しました。

だからできないことはないです。

[知事]

年に1回ジュエリーマスターの皆さんが作った最高の物を展示するようなことをやっているわけですか。

[参加者]

やっておりません。細々とたまにやるくらいで、是非その辺をなんとか考えていただければ。

[参加者]

そうしていただければ、またみんなも力を入れて品物を造りますし。

[知事]

宝石美術学校ができれば、あそこはかなり広い展示室ができるからあそこということもありますけれどもね。

[参加者]

ただ、そういうことをするのはやはり美術館で開くのと、また価値観のウェートが違います。

やはりマスターだから芸術の域に達しているという権威を与えたいという部分があるんです、ですから美術館で開きたいんです。

[知事]

けど美術館の中に宝飾コーナーみたいなものがあってもいいですよ。

[参加者]

ここの地場産業「かいてらす」は色々な規制があって、売っちゃいけないとか、あれをやっちゃいけないとか、そういうことでだめなんです。

物を造る時に売ることを考えないで物を造るということはありませんよ。

[知事]

そうかもしれませんね、確かにね。販売しているという感じじゃないですね。

[参加者]

それを徹底的にそれなりのものでやっていけば参加者も非常に多くなりますし、そして、この「かいてらす」の立地ということも私たち産業として考えなければならぬ。

ここの連携をどうするか、アクセスをどうするのかという考え方をきちっと持っていないと、宝の持ちぐされになりますからね。

[知事]

まあ、ここも非常に素晴らしいんですけれども、どうもいまひとつ立地条件がよくないものですから。

[参加者]

ジュエリー協会フェア担当の副理事長をやっております。

4月にフェアをやらせていただきまして、その後に大宝飾展というスケジュールになっておりますが、ちょっと心配な部分があります。

「風林火山」一色の山梨県で、観光の目玉の風林火山博がなくなって、信玄公祭りからのくらい我々の展示会に人が流れるかちょっと心配です。

[知事]

もう来年の日は決まっているんですか。

[参加者]

信玄公祭りの日です。その日の午前中から4時までということになっていますので、是非ともこのお客様の足を。

[知事]

4、5、6月とデスティネーションキャンペーンという、全ての鉄道の駅で山梨のPRをするんですよね。

[参加者]

「そうだ、京都に行こう」と同じようなキャンペーンをするらしいので、それを期待しています。

是非県でも、信玄公祭りの時にアイメッセに足を向けるようないいアイデアがあればと思います、これはお願いになるんですが、一つよろしく願いいたします。

[知事]

来年もやっぱり2千億ですか。

[参加者]

もっとエスカレートしますよ。本当です。

[知事]

すごいものですね、だけどね。

[参加者]

さっきジュエリーマスターのことがお話しに出たんですが、今後の山梨が宝飾産地として残るには、この制度をどんどん全国に知らしめていくことが一番手っ取り早いのではないかと思います。

先ほど言われたように、美術館で展示会をやることも、そういうことを宣伝してもらうことで、宝飾を売れる一つの基礎になると思います。あと技術的なことはその時代時代に

よって切磋琢磨すればそれなりのものが生まれてくると思いますので、是非ジュエリーマスターそのものを育てて欲しいと思います。

[知事]

これは山梨県人でなくてもいいわけですか。

[参加者]

そういうことです。

[知事]

これを山梨県が主催をして認定しているわけですか。これはいいですね。志が高いですよ。これは山梨県だけだとかそんなつまらんことじゃなく。

[参加者]

大阪のほうにもマスターが一人いるんです。

[知事]

そうですね。これはもう全国から応募するようにさせたいですね。ワインも「国産ワインコンクール」といって山梨県が主催して、しかしそれはもちろん日本全国誰でも参加をしていいという、あれをやって5年になりますね。それからワインの質がぐっと上がりましたものね。同じことですよ。分かりました。

[参加者]

彫刻組合です。石和に伝統工芸館があるんですが、ご覧になったことがありますか。

[知事]

ないですね。ちょっと変わったとんがり屋根の建物ですね。

[参加者]

あれを一度知事が見て、そして観光ルートの一環の中に入れて県外の人に宣伝してもらいたい。あの中には自分たちの仕事の真髄が全部並んでいますから。

それをまず県内の人にも知ってもらいたい、石和にいる人たちに聞いても、そんなものがあつたのかと、だからそういうのを宣伝してもらいたいんですよ。

「かいてらす」にある物とはまた種類が全然違うものです、是非見てください。そしてあとで協力してください。

[知事]

そうですね。1回是非見てきます。

[参加者]

宝飾業界の人たちもみんな着けているかと思えますけれども、山梨県民で例えば男性ではスーツにはこういう「スタット・ピン」というのがあります。男性用のファッションなんですけれども、是非業界人だけじゃなくて県庁の職員の皆さん方にも付けていただきたい。

ジュエリーでも県庁あるいは市の職員の皆さん方にも着けていただけるような運動をしていただければ、この業界にも少しプラスになりますし、職員の方々が県外に行くと、それは何ですかというような形でコミュニケーションになるわけですね、これは山梨で作っていますよとかというように。是非そういう部分の運動も県職員の方々にも一翼を担っていただきたいなど。

[参加者]

当組合は作り手の集まりなんですけれども、組合員のほうの平均年齢をみますと65歳を越えるような高齢になります。そういった中で後継者に大変苦労しているんです。

その辺を県からは先程言ったような補助金等々を是非協力をよろしくお願いします。

[知事]

農家と同じですね、65歳、後継者がいない。やっぱり後継者が少ないですかね。

[参加者]

そうですね、廃業する方もあれば、ある程度順調に伸びている会社もありますから。こういう不景気な中で仕事を継がせたくないところもあります。

[知事]

そうですね・・・。

[参加者]

この宝飾が水晶から始まったということで、水晶をPRしたいと考えております。以前、駅前にあった水晶の再現というんですか、あれ以上のものをもしできればまた考えていただきたい。そんなふうには是非ともお願いいたします。

[知事]

あれ本当に、いつのまにやらなくなっちゃったんですけれども、どこに行っちゃったんですかね。何か、段々少し古くなってきてちょっと色が。

[参加者]

酸化して、多少黄色みは帯びたけれども、結構こんな大きいものもいっぱいありましたよね。

[参加者]

あの水晶は水がかかっていましたから、ライトアップで。非常にきれいだったんです。当時、宝石の町にしたかった、ただそれだけです。

[知事]

やはり車の回しのために取っちゃったということですね。

[参加者]

国体の時に駅前を整備して多分なくなっただけですね。

[参加者]

例えば、県庁庁舎とか県民会館とか、広場を水晶公園みたいにどんどん作ってください。

業界で集めて寄附しますよ。

そのぐらいのことをやらなければだめですよ、自分たちの誇りの町だから。

[司会]

ではすみません、予定の時間になりましたので、最後に知事からまとめの感想を含めお願いします。

[知事]

ありがとうございました。いつもながら本当に啓発されるお話を承りましてありがとうございました。

啓発されて感心ばかりしていただけないので、実行すべきものは実行しないかんというふうに思っております。すでに何回も話をさせていただいて、大体皆様方がお考えになっている概要が見えてきておりますので、是非一つ皆さんと一緒にがんばっていきたいというふうに思っております。

今日は本当にありがとうございました。

[司会]

ではこれもちまして『県政ひざづめ談議』を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。